

A 数字を比べる前に

基礎～標準 1 | 解答・解説

記述は、表現が違っていても必要な内容と条件を満たしていれば正答です。

問1 段落の役割

答え：イ

解説 ①段落は具体的な場面を示したあと、人数の増え方だけで判断してよいかという問いを出している。

問2 情報の取り出し 17字

答え：開室する日を三日から五日に増やした

解説 「同時に」のあとに、展示とは別の変更が示されている。

問3 指示内容

答え：ウ

解説 直前では、開室日数と、もともと通う人の数という二つの条件の違いを説明している。

問4 接続関係

答え：ア

解説 ③段落で挙げた問題を受け、④段落で条件をそろえて比べる方法を提案している。

問5 段落構成

答え：(a) ②・③ (b) ⑤

解説 ②は条件が異なる図書室の例、③は比べにくい理由、⑤は文章全体の結論を示す。

別解・許容 (a) は「②～③」でも可。

読み取りのポイント

「数字が大きい」という結果と、「その結果が出た条件」を分けて確かめる。具体例を省き、筆者の考えを一般的な言葉でまとめる。

A 数字を比べる前に

基礎～標準 1 | 解答・解説 | つづき

問6 理由説明 解答例 30字

解答例：開室日を増やしたことで、借りる機会も増えた可能性があるから。

解説 展示に加えて開室日数も変わったため、利用者の増加を展示だけの結果だと決められない。

別解・許容 「開室日も増やしており、利用者の増加には展示以外の原因も考えられるから。」（35字）も可。

採点の目安 展示以外に開室日数も増えたことと、それが利用者数に影響し得ることを結び付けていれば正答。

「借りる機会が増えた」と明示しなくてもよい。

問7 考えの活用

答え：エ

解説 同じ図書室で日数をそろえ、そろわない条件も記録する方法が④段落に合う。

問8 要旨 解答例 53字

解答例：数字を比べるときは、差の大きさだけで判断せず、数字を得た条件を確かめて、その差の意味を考えることが大切だ。

解説 具体例の図書室名や展示方法を省き、⑤段落の中心となる考えと条件の確認を結び付ける。

別解・許容 「数字を得た条件を確かめながら比べ、結果に生じた差にどのような意味があるかを考えることが大切だ。」（47字）も可。

採点の目安 数字を得た条件を確かめ、数字の差の意味を考えることを含める。「差の大きさだけで判断しない」は、この関係に含まれていれば明記しなくてもよい。

読み取りのポイント

「数字が大きい」という結果と、「その結果が出た条件」を分けて確かめる。具体例を省き、筆者の考えを一般的な言葉でまとめる。

B 記録を次の一歩へ

基礎～標準 2 | 解答・解説

問1 対比

答え：(a) 忘れない (b) 手がかり

解説 「しかし」の前後で、過去を残す働きと、次の行動につなぐ働きを対比している。

問2 具体例

答え：ア

解説 二つ目には、水やりからの時間、夕方という時刻、日当たりのよい窓辺という場所が加わっている。

問3 事実と予想

答え：エ

解説 「かもしれない」は、原因について考えた可能性を表す。本文では事実と区別している。

問4 段落を結び付ける 解答例 47字

解答例：記録した条件を比べることで、観察が晴れの日に偏っていると気づき、次に調べる条件を見つけられる。

解説 ②の「条件を残す」と④の「書かれていないことを見る」を結び付ける。条件の記録があれば、観察していない条件も分かる。

別解・許容 「記録の条件を比べると、まだ観察していない条件に気づき、次に調べる内容を見つけられる。」(42字)も可。

採点の目安 記録した条件の比較、未確認の条件への気づき、次の観察につなげることを書く。晴れ・曇りの具体例は必須ではない。

読み取りのポイント

見たことと、そこから考えたことを分ける。記録にない条件を探すと、「次に何を確かめるか」という問いにつながる。

B 記録を次の一歩へ

基礎～標準 2 | 解答・解説 | つづき

問5 理由説明 解答例 34字

解答例：まだ確かでない理由を、確かめられた事実だと思い込むおそれがあるから。

解説 ③段落の最後の一文が理由を示す。

単に「分かりやすいから」とせず、混ぜたときの問題を書く。

別解・許容 「予想を事実と混ぜると、すでに確かめられたことだと取り違えるおそれがあるから。」（38字）も可。

採点の目安 ①まだ確かでない予想、②事実だと思い込む危険、の関係を書く。

問6 段落の関係

答え：ウ

解説 ②～④で記録の工夫と注意点を説明し、⑤で役立つ記録に必要な考えをまとめている。

問7 要旨 解答例 53字

解答例：記録は、事実と考えを分けて残し、まだ分からない点を見つけることで、次に確かめることを考える手がかりになる。

解説 ⑤の二つの工夫と、①・⑤に共通する「次の行動につなげる」という働きをまとめる。

別解・許容 「書かれていないことに目を向ける」を「まだ分からない点を見つける」の代わりに用いても可。

採点の目安 ①事実と考えの区別、②未確認の点を見つける、③次に確かめることにつなげる、を含める。

問8 考えの活用 解答例 39字

**解答例：曇りの日にも植物を観察し、
晴れた日と同じように葉がしおれるかどうかを確かめる。**

解説 書かれていない曇りの日の様子を調べ、晴れの日と比べることで、次の問いを確かめられる。

別解・許容 雨の日など、晴れ以外の日を挙げても可。しおれ方を比べる目的を示す。

採点の目安 ①晴れ以外の日の観察、②葉のしおれ方を比較する目的、の両方を書く。

C 便利さと選び直す力

発展・応用 | 解答・解説

問1 利点の把握

答え：イ

解説 ②段落では、過去の好みをもとにした提案によって、好きな分野の本を短時間で探せると述べている。

問2 対比

答え：エ

解説 好きな分野をすばやく探せる利点と、未知の分野に出会いにくくなる可能性が対比されている。

問3 具体と抽象 21字

答え：それまで関心をもたなかった分野に出会う機会

解説 ②の本の例を、③では一般的な選び方の問題として言い換えている。

問4 段落の役割

答え：ア

解説 ③で問題点を挙げても、提案を全面的に否定はしない。④は場面による違いを示し、⑤の使い分けにつなぐ。

問5 理由説明 解答例 36字

解答例：短時間で必要な本を探す場面では、提案が選ぶ負担を軽くする助けになるから。

解説 ②の利点と④の場面の違いを結び付ける。「便利だから」だけで終えず、役立つ場面を示す。

別解・許容 「場面ごとに求めるものが異なり、自動の提案が役立つ場合もあるから。」（32字）も可。

採点の目安 「短時間で探す場面」と「負担を減らす利点」を結ぶ。または、場面ごとに求めるものが異なり、提案が役立つ場合もあると説明する。

C 便利さと選び直す力

発展・応用 | 解答・解説 | つづき

問6 内容一致

答え：ウ

解説 ⑥では、提案の外にある地図の本との出会いが、次の本を選ぶ手がかりになる例を示している。アは仕組みの目的、イは新分野の探し方、エは任せる範囲の決め方が本文と異なる。

問7 要旨 解答例 52字

解答例：便利な提案を生かすには、目的に応じて選び方を変え、自分で確かめる部分と選び直せる余地を残すことが大切だ。

解説 ①の「自分の関わり」と⑤の「目的による使い分け」を結ぶ。⑥の本の例だけに限定せず、文章全体の考えをまとめる。

別解・許容 「新しい分野にも目を向ける」を、自分で確かめる行動として加えても可。

採点の目安 ①便利な提案の活用、②目的による使い分け、③自分で確かめたり選び直したりする余地、を含める。

問8 考えの活用 解答例 62字

解答例：勧められた動画だけでなく、普段見ない分野も検索して調べる。知らない分野に出会い、研究したい題材を見つける可能性が広がるから。

解説 本の選び方についての考えを、動画を使った題材探しに生かす。新しい分野を探す目的に合う行動と、その行動の意味を結び付ける。

別解・許容 提案外の分野を検索する、普段見ない分類から動画を選ぶなども可。本文の本の例をそのまま書かず、動画での行動に置き換える。

採点の目安 ①提案や過去の好みの外にも目を向ける行動、②未知の分野に出会えること、または興味・選ぶ基準を見直せること、を行動と理由として結び付ける。

読み取りのポイント

筆者が認める利点と問題点を両方読み取り、目的による使い分けにつなげる。主張は①にもあるので、最後の具体例だけで要旨を決めない。

D 問いをそろえる話し合い

定期テスト対策 | 解答・解説 | 100点満点

問6～8は内容点の合計から、字数範囲外は1点減点します。問8は指定語が一語でも欠けていれば、欠けた語の数にかかわらずさらに1点減点します。各問の下限は0点です。

問1 指示内容〔10点〕 26字

答え：それぞれの意見は、同じ問題に向けられているだろうか。

解説 「確かめたいこと」の具体的な内容は、直後の疑問の形の一文に示されている。

採点の目安 一文を正しく抜き出して10点。句読点だけの過不足は9点。内容は合うが、言葉の範囲に過不足がある場合は5点。

問2 具体例〔10点〕

答え：ウ

解説 一人は貸出の列の長さ、もう一人は座る場所の少なさに困っている。

問3 接続関係〔10点〕

答え：ア

解説 ④の「問いをそろえる」を受け、同じ意見に統一することではないと、誤解を防ぐ説明を加えている。

問4 段落構成〔10点〕

答え：エ

解説 ①で問いを示し、②・③で具体例と問題点、④・⑤で進め方と注意、⑥でまとめを述べている。

問5 情報の取り出し〔10点〕 13字

答え：全員に同じ意見を求めること

解説 「問いをそろえることは、～ではない」の形に注目する。否定されている内容を抜き出す。

採点の目安 指定範囲を正しく抜き出して10点。句読点だけの過不足は9点。内容は合うが、言葉の範囲に過不足がある場合は5点。

D 問いをそろえる話し合い

定期テスト対策 | 解答・解説 | 100点満点 | つづき

問6 理由説明〔15点〕 解答例 45字

解答例：一方は貸出の混雑を、もう一方は座席の不足を解決しようとしており、注目する問題が異なるから。

解説 ③の後半の理由を、二つの具体的な問題と、その違いが分かるようにまとめる。

別解・許容 「列の長さ」「座る場所の少なさ」という言い換えも可。

採点の目安 貸出の混雑5点、座席の不足5点、二つの案が別の問題を解決しようとしている関係5点。字数の条件は共通基準を適用。

問7 内容の説明〔15点〕 解答例 49字

解答例：問いをそろえるのは考える課題を共通にすることであり、その課題への解決案まで同じにすることではない。

解説 共通にするのは「課題」であり、違いを残して比べられるのは「解決案」だと区別する。

別解・許容 「問いをそろえるのは考える課題を同じにすることで、同じ意見を求めるのは解決案を同じにすることだ。」（47字）も可。

採点の目安 考える課題の共有7点、解決案まで同じにすることとの区別8点。二つを直接定義し分けた説明も可。字数の条件は共通基準を適用。

問8 要旨〔20点〕 解答例 63字

解答例：話し合いでは、互いの意見が向けられた問題を確認め、共通の問いを土台にして、意見の違いをよりよい解決方法を考える手がかりにする。

解説 図書室という具体例を省き、①・⑥の中心的な考えをつなぐ。問いをそろえる目的までまとめる。

別解・許容 「話し合いを進めるには、共通の問いを土台として案を比べ、意見の違いをよりよい解決方法を考える手がかりにすることが大切だ。」（59字）も可。

採点の目安 共通の問い・課題を土台に話し合うこと12点、意見の違いをよりよい解決方法の検討に生かすこと8点。各意見が向けられた問題の確認を加えてもよい。同じ意味なら解答例と同じ語句は不要。字数・指定語は共通基準を適用。